



紫雲児の心

行動する勇気の大切さ

校長 五十嵐 めぐみ

7月14日(月)の朝、臨時の全校朝会を行いました。1学期を振り返るこの時期に、全校生徒に考えてほしいことがあったからです。生徒指導主事から以下の内容を話しました。

① 「いじめをしない」は当たり前。

どんな理由があっても、いじめはしてはいけない。人を傷つけていい理由なんてない。

② いじめを見逃すのも、いじめているのと同じ。

自分がいじめていなくても、誰かがいじめや不適切な言動をしているのをそのままにして、「見て見ぬふり」をしたり、「関わらない」ようにしたり、心の中ではダメだと思っけていても何もしないのは、自分もいじめに加わっているのと同じ。

③ 「いじめの芽」をなくす。

SNSへの悪口の書き込み、からかいのつもりで言った一言、ノリで誰かを無視すること、ふざけて体を叩いたり押したりすること、人の持ち物をいじることなど、悪気がなくても、それらはすべて「いじめの芽」。相手がいやな気持ちになればいじめになる。

④ 必要なのは「アクション」。

「それ、よくないと思うよ。」と声をかける。傷ついていそうな人がいたら「大丈夫？」と声をかける。先生や大人に「気になる子がいる」と伝えるなど、いじめをなくす・見逃さないためにアクションを起こすことが大切。SNSの良くない発言に加担(反応)しないことも重要。

※ 「自分はいじめていないから関係ない」ではなく、「自分にできることをする」。

※ みんなが安心して過ごせる学校にするためには、「やさしさ」だけではなく、「行動する勇気」が必要。いじめをしないのは当たり前。それに加えて、見逃さない、止める、知らせる、声をかける、などの行動ができる人こそ、本当に「信頼される人」「強い人」。皆さん一人一人の行動に期待しています。

今日の終業式でも、このことについて「行動できていますか?」と生徒に問いかけました。人が複数人集まれば、社会ができ人間関係が生まれます。自分とは異なる考え方やものの感じ方をする「他人」の存在を認識し、様々な人の気持ちを思いやりながら言葉を発したり行動したりしなければ、良好な人間関係は築けません。差別やいじめは、「自分ほしくない」だけでは十分とは言えません。「許さない」気持ちを持ち、なくすために行動できることが大切です。「自分はいじめていない」で終わるのではなく、いじめをなくし、みんなが安心して過ごせるために「行動を起こす勇気」を生徒一人一人がもってほしいと思います。

2学期の体育祭や合唱に向け、全校生徒一人一人が勇気をもって行動してくれることを期待します。みんなが安心して頑張れる学校を、みんなの力で創りましょう!!